

足羽山ランタンナイト

事業責任者：西本 雅人（学術研究院工学系部門 准教授）

代表学生：吉田 憲人（大学院工学研究科2年）

概要	「学生のアイデアを生かした地域協働イベントによる賑わい創出」
	本取組は学生・地域住民が協働、事業者・行政と連携し地域振興イベントを実施するものである。令和5年度、6年度足羽山ワークショップで作られたランタンと、地域課題である繊維端材の利活用による地域賑わい創出を目指し開催。イベントでは煌びやかなランタンの灯りと体験型ワークショップ等を提供、約1000名が来場した。翌日の新聞1面にも取り上げられ、参加者からは本取組に対し非常に良い反応を頂き、地域交流・賑わいに寄与。次年度の開催も期待されている。
関連キーワード	地域振興、賑わい、交流、ランタン、商品開発

事業の背景および目的

・事業の背景

福井県の足羽山地域は、市街地から近く、歴史的な建造物や史跡が多く残り、「街中であって自然が残る山」として市民に親しまれてきた一方で、来訪者層の高齢化や地域の象徴であった「桜の木」の老朽化によって、かつての賑わいが薄れてきているという課題を抱えている。この課題に対して、足羽山事業者から大学への働きかけをきっかけとし、福井大学の学生、教員、職員及び足羽山事業者が連携する「足羽山をバズらせるプロジェクト」が発足し、足羽山の自然や歴史との相性の良い「ランタン」をアイコンとした「足羽山ランタンナイト」というイベントを令和5年度、6年度に実施した。また、令和6年12月には、「足羽山学生サミット」を開催し、上記プロジェクト関係者に加えて、福井県立高等学校探究特進クラスの生徒、福井市・福井県の行政関係者が参加。「若者の県外流出防止」や「地域コンテンツの魅力発信」としての役割を担う活動として注目が集まり、本取組の社会的意義が高まっている。「事務局企画力向上プロジェクトチーム」の解散に伴い、令和7年度は、本プロジェクトの学生メンバーが立ち上げた公認サークル「地域探究活動 Lab.」（在籍学生数40名）が理念と活動を継承。西本教員（工学部建築学科）指導の下、地域住民、事業者、福井市、福井県との連携をより強固にし、イベントを開催した。

・事業の目的

学生アイデアでの地域協働イベント開催による賑わい創出

事業の内容および成果

成果(内容)①地域協働製作

高校生・地域住民の方と共に繊維端材等を再利用したオブジェクト及び設置型ランタンを製作。協働して取り組むことで地域(産業)課題の認識と、達成感の創出を目指した(イベント当日に展示)。

成果(内容)②賑わい創出に向けた企画

家族(子供)が楽しめる体験(コンテンツ開発)、飲食(キッチンカー)など企画・実施。若者・観光客だけでなくご年配の方やご家族も来訪できるイベントを企画し、地域へ浸透・好循環を生み出した。

(結果として1000名を超える来場客があった)

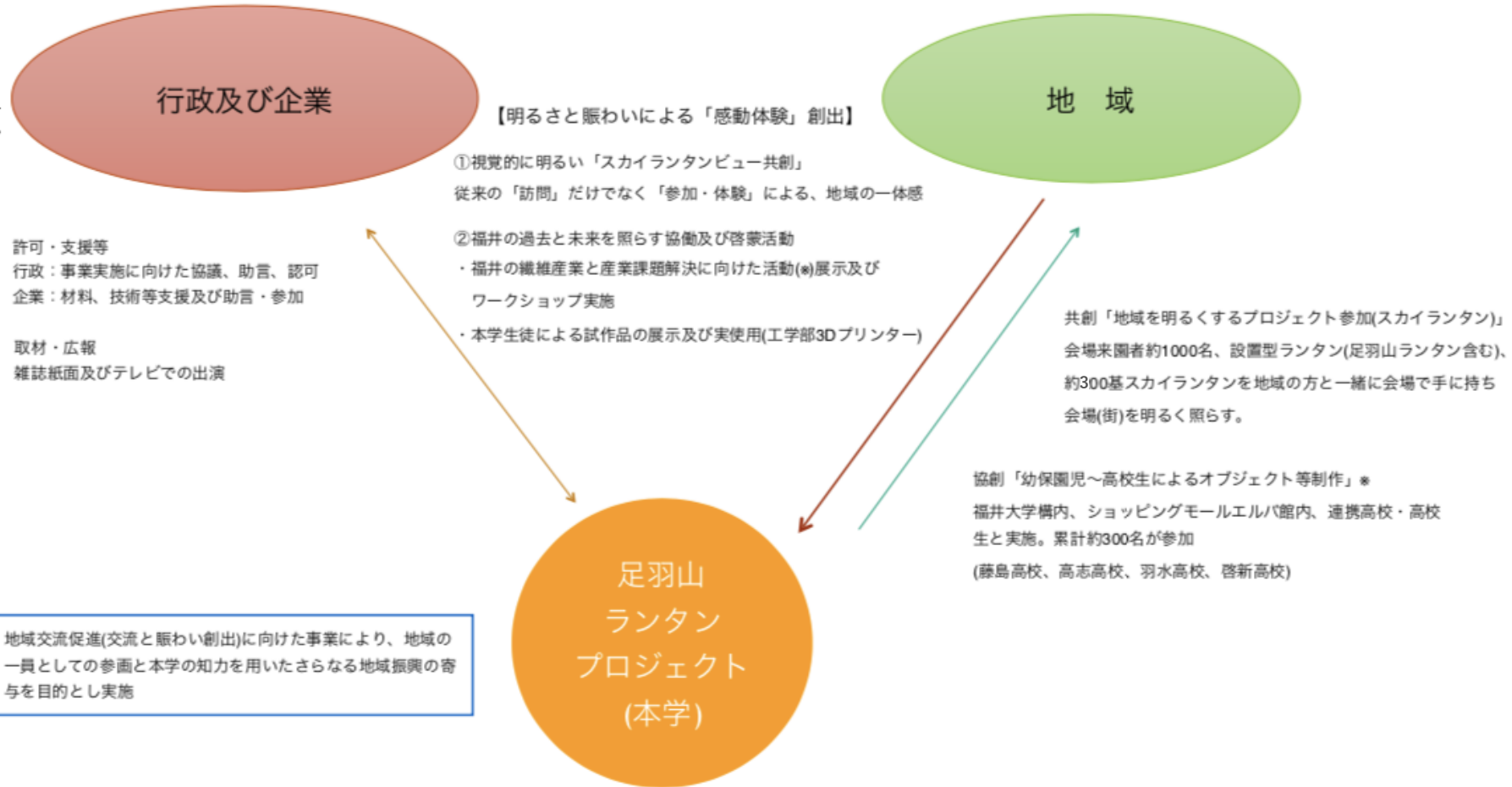
成果(内容)③イベント開催に伴う広報・来場者数及び今後の見通し

SNS等を活用したプロモーションを実施。結果、目標としていた1000名規模のイベントが実施できた。さらなる事業発展のため、地域ファンづくりと再訪を促す取り組みを次年度に引き続き検証していく。

参考文献・添付資料および特記事項等

事業名：足羽山ランタンプロジェクト

事業責任者：西本雅人（学術研究院工学系部門 准教授） 代表学生：吉田憲人（大学院・2年）



開催結果

参考資料

効果	来場数	1200人
	スカイランタン数	200基
	設置型ランタン数	300基
報道	福井放送(FBC)	1分30秒
	福井新聞紙面	9/27社会面 10/12一面
	Ready for	達成(30万円)
その他	ボランティア	当日41名(累計125名)
	応援メッセージ	133件
	ご協賛数	23社(後援含む)
連携校 (運営参加生徒含む)	藤島高校	
	高志高等学校	
	羽水高等学校	
	啓新高等学校	
閲覧数	約23万/月	
男女比	約3:7	

・ SNSによる広報結果



Instagram Fukumin.fukui

→地域住民の参加と産業(企業)協創、本学生徒と県内若者の共創を実現

当日の様子

参考資料

